

Uターン就農で攻めの農業を

生まれ育った地元で、魅力的な価値のあるものを広めていきたいという思いから、新しい品種の栽培に取り組んでいます。



イチゴは12月～5月中頃、イチジクは9月～12月頃に出荷・販売されます。

「U」や「パッケージ」は、自ら企画。



多賀町久徳

farm一日一日

近藤 諭志さん(43)

主要作物の作付面積

作物名	作付面積
イチゴ	12a
イチジク	5a

令和元年(2019年)度



前 職のIT関連企業で培ったデジタル分野の経験と農業を結び付け、地域になくはならない生産者を目指しています。

昨年3月に地元多賀で就農

IT関連企業での勤務を経て昨年3月、地元多賀町にUターン就農し、「farm一日一日」と名付けた農園で、イチゴとイチジクのハウス栽培に取り組み近藤諭志さん。農園の名前には「一日一日、地道に謙虚な姿勢で農業と向き合う」という意味が込められています。農業の魅力は？と尋ねると、今までデジタルの世界で仕事をしていたこともあり、農業は自然や人とのふれあいが楽しいと笑顔で話していただきました。

本当においしいと思える品種を届けた

滋賀県では珍しい「よつぼし」という新品種のイチゴを栽培しています。真っ赤な色に強い香り、高い糖度の特徴で、リピーターが続出するなど評判を呼んでいます。イチジクも黒いダイヤと言われる品種「ピオレ・ソリエス」を栽培しています。今まで地元で多く生産されていたスタンダードな品種にこだわりのではなく、近藤さん自身が「これはおいしい！」と思える品種だけを栽培するようにしています。

安全安心、そして安定。

目指すのは、地域になくはならない「歯車の生産者」。おいしいのは当然のこと安全で安心、そして安定して消費者の皆さんに届けられる生産者を目指しています。また、自身が生産する農産物や情報発信などに刺激を受け、新たに農業を始めようとする人が増えることを願っています。そのためにも、地域の方々と対話をしながら、農業の可能性を日々模索し発信していきます。



たわわに実るイチゴとイチジク

Searchs!

今月の表紙

今月の表紙は大豆の播種です。「畑の肉」と呼ばれるほど栄養価が高いのに、カロリーが低い健康食材です。納豆や豆腐、味噌の原料になることから、古くから日本人の食生活には欠かせない存在になっていますよね。実は、大豆を未熟な状態で収穫したものが「枝豆」です。ポイントを押さえれば比較的栽培がしやすい作物ですので、チャレンジしてみたいかがでしょうか？(4月号の家庭菜園で掲載しています。)



Contents

- 4 特集 「JAの自己改革に関する組合員アンケート」結果のご報告
- 6 今日からはじめる 家庭菜園
- 8 ピックアップ! 地域のEすとニュース
- 10 あつまれ 地域のEひと
- 12 スタッフルーム
- 14 おいしくうれしく 魔法のレシピ